

全球地球観測システム(GEOSS)構築における最近の動きについて

平成 25 年 5 月 7 日

研究開発局

環境エネルギー課

1. GEOSS の概要

- 1) 2003 年 6 月の G8 エビアンサミットの結果を受け、国際的な連携によって、衛星、地上、海洋観測等の地球観測や情報システムを統合し、地球全体を対象とした包括的かつ持続的な複数システムからなる全球地球観測システム(GEOSS: Global Earth Observation System of Systems)を 10 年間(2005-2014)で整備。
- 2) GEOSS を推進する国際的な枠組みとして、地球観測に関する政府間会合(GEO: Group on Earth Observations)を設立。88 カ国、EC、69 の国際機関・関連組織が参加(2012 年 11 月現在)。(CEOS、ESA、EUMETSAT 等が参加機関)
- 3) GEOSS 整備のために 2005 年から 2015 年までの 10 年実施計画を策定。同計画は 9 つの社会利益分野(農業、生物多様性、気候、災害、生態系、エネルギー、健康、水、気象)に必要な地球観測データを明らかにし、その取得・管理、共有等の方策について記述。

2. 2014 年 GEO 閣僚級会合の開催

GEO では原則 3 年に 1 回、閣僚級会合を開催しており、次回閣僚級会合は 2014 年 1 月にジュネーブ(スイス)で開催される予定である。2005 年に採択された GEOSS10 年実施計画が 2014 年末で最終するにあたり、GEO はジュネーブ閣僚級会合において、これまでの GEOSS の実績及び成果を明確にし、GEOSS の存在意義を示すとともに、2015 年以降の GEO/GEOSS 継続について大臣から承認を得ることを目指している。

このため、「閣僚級会合準備作業部会(MIN-WG)」及び「2015 年以降 GEO 検討作業部会(PWG)」を設置し、ジュネーブ閣僚級会合のアジェンダ(サイドイベント、展示等含む)及び打ち込み内容を検討すると共に、宣言文をはじめとする大臣に提示する文書一式の検討及び案文作成を進めている。

2. 1 2015 年以降の GEO/GEOSS 継続の議論について

2015 年以降の GEO/GEOSS 継続の方向性については、GEO において以下の点を中心に議論を進めている。これらの議論は勧告としてとりまとめられ、GEO 本会合の承認後、最終的にはジュネーブ閣僚級会合で採択される宣言文の参照文書として提示される予定。

なお、我が国は地球観測推進部会の下に置かれた GEOSS 作業部会での検討を踏まえて議論に参加。

○GEO 及び GEOSS 実施の継続

全球観測システムを構築し存分に活用することは、単一の国家、国際組織、学術分野等の能力を超えるチャレンジであることから GEO 及び GEOSS の実施を継続

○GEO の戦略的目的

2015 年以降の GEO の戦略目的は以下の 3 つに焦点

- ・関連する世界的な取組み(国連機関等)との連携と地球観測の調整・ネットワークの強化
- ・GEOSS の情報システムの実施によるデータアクセスの強化
- ・地球観測情報の空白に対応する世界的な取組みの養成

○社会利益分野(SBA)のあり方

持続可能な開発テーマとの連携を探るために現在の SBA を見直すとともに、国連組織との協力において SBA を活用

○新しい GEOSS10 年実施計画

- ・GEO の中核機能・・・観測システムの強化、観測データ共有の推進、ユーザー及び政策決定者との連携 等とする
- ・フレキシブル、機動的かつ包括的な国際連携枠組みである現在のガバナンス機構を保持する
- ・開発途上国との連携、特に能力開発を強化する
- ・非営利及び民間部門との連携を強化する

<今後の予定>

- 5～6 月:宣言文案及び勧告案の各国 GEO 代表によるレビュー
- 5 月 28-29 日:第 3 回閣僚級会合準備作業部会(宣言文案及び勧告案のレビュー)
- 7 月 16-17 日:第 28 回 GEO 執行委員会(宣言文案及び勧告案のレビュー)
- 9 月:各国からのコメント締切
- 11 月:最終文案とりまとめ

2.2 閣僚級会合開催スケジュール

2014 年 1 月 13 日(月)～17 日(金)にジュネーブ国際会議場で開催予定の GEO 関連会合及び閣僚級会合は以下のとおり。

	午前	午後
2014 年 1 月 13 日(月)	GEO 運営委員会	GEO 執行委員会 GEO 運営委員会
1 月 14 日(火)	GEO 執行委員会(続き) GEO 運営委員会(続き) 【展示一般公開開始】	GEO 本会合
1 月 15 日(水)	GEO 本会合(続き)	
1 月 16 日(木)	GEO 本会合(続き)	大臣プログラム/ サイドイベント
1 月 17 日(金)	GEO 閣僚級会合	

以 上

全球地球観測システム (GEOSS)について

GEOSS: Global Earth Observation System of Systems

経緯

持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD) (2002年9月)
環境保護と経済開発の両立に対する地球観測の重要性を強調

G8エビアンサミット(2003年6月)
10年実施計画の策定、閣僚会合の開催を合意

地球観測サミット

第1回 2003年7月 アメリカ (渡海文部科学副大臣)

第2回 2004年4月 日本 (小泉内閣総理大臣)

第3回 2005年2月 ベルギー(小島文部科学副大臣)

「全球地球観測システム (GEOSS) 10年実施計画」の策定

G8グレンイーグルスサミット(2005年7月)

10年実施計画の採択を歓迎する旨表明

G8ハイリゲンダムサミット(2007年6月)

GEOSSの発展においてリーダーシップを発揮することを確認

地球観測に関する政府間会合(GEO)閣僚級会合

2007年11月 南アフリカ (渡海文部科学大臣)

衛星観測、地上・海洋観測等の国際的な連携の強化を趣旨とする
ケープタウン宣言を採択

G8北海道洞爺湖サミット(2008年7月)

地球観測データに対する需要の増大に応えるため、GEOSSの枠組み
において、観測、予測及びデータ共有を強化する旨表明

G8ラクイラサミット(2009年7月)

気候変動に起因する自然災害及び極端な気象現象の増大した驚異
に対処するため、GEOSS開発のための継続中の作業を支援する旨表明

地球観測に関する政府間会合(GEO)閣僚級会合

2010年11月 北京

2015年までのGEOSS構築に向けた戦略目標の推進や、観測データの
登録とデータ公開の為の体制整備等を盛り込んだ北京宣言を採択

「GEOSS10年実施計画」の概要

- 国際的な連携によって、衛星、地上、海洋観測等の地球観測や情報システムを統合し、地球全体を対象とした包括的かつ持続的な地球観測を10年間で整備
- 災害、健康、エネルギー、気候、水、気象、生態系、農業、生物多様性の社会利益分野に対して、政策決定に必要な情報を創出することを目指す
- GEOSSを推進する国際的な枠組みとして、**地球観測に関する政府間会合(GEO: Group on Earth Observations)**を設立

地球観測に関する政府間会合 (GEO)

GEO閣僚級会合(地球観測サミット)

GEO本会合(88か国+EC、69機関)2012年11月現在

共同議長：先進国2か国、開発途上国2か国で構成
(米、EC、南ア、中)

執行委員会(13か国)

(中、韓、ニュージーランド、日) (EC、英、エストニア) (露)
(南ア、ナイジェリア) (米、加、アルゼンチン)

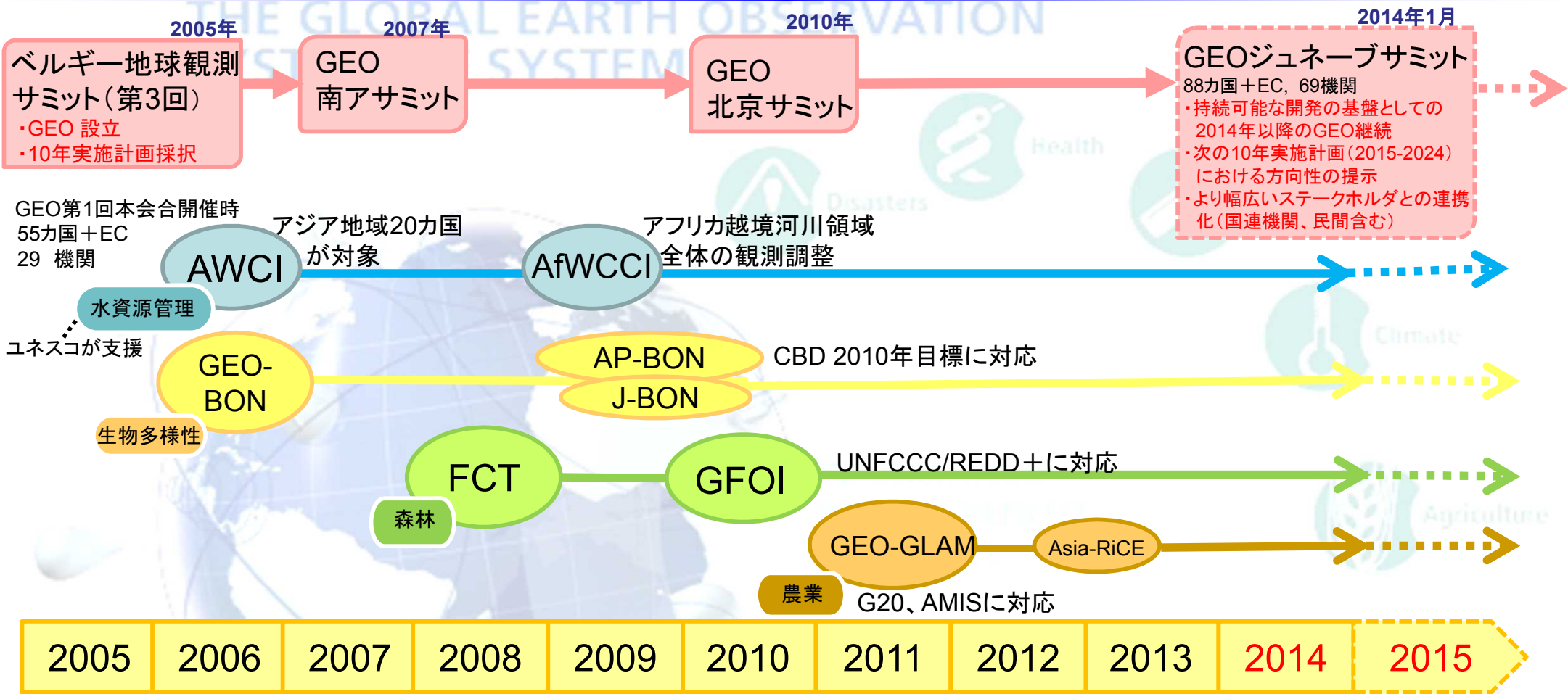
専門委員会

- 「構造」計画運営委員会
- 「制度及び開発」計画運営委員会
- 「社会利益のための情報」計画運営委員会

GEO事務局

(ジュネーブ:世界気象機関内)
※主にGEO参加国からの拠出金によって運営

国連機関と連動したGEOSS取組みの発展



G8
グレンイーグルス

G8
ハイリゲンダム

G8
洞爺湖

G8
ライクラ

G20
カンヌ

食料安全保障への懸念

COP6
2000年、ハーグ

2010年目標採択

COP9
ボン

COP10
名古屋

2010年目標 評価

Rio+20

持続可能な開発の基盤としてのGEOSSの認知

- AWCI: アジア水循環イニシアチブ
- AfWCCI: アフリカ水循環調整イニシアチブ
- GEO-BON: 生物多様性観測ネットワーク
- AP-BON: アジア太平洋生物多様性系観測ネットワーク
- J-BON: 日本生物多様性観測ネットワーク
- FCT: 森林炭素監視イニシアチブ
- GFOI: 全球森林観測イニシアチブ
- GEO-GLAM: 世界農業地理監視イニシアチブ
- Asia-RiCE: アジア稲作監視イニシアチブ
- CBD: 生物多様性条約
- COP: 生物多様性条約締結国会議
- Rio+20: 国連持続可能な開発会議
- UNFCCC: 気候変動枠組条約
- REDD+: 途上国における森林現象/劣化からの排出の削減に関する取組み(RADD)に森林保全・持続可能な森林経営、炭素吸収の強化をプラスした取組み
- AMIS: 農業市場情報システム